

和泉葛城山ブナ林の保全活動の 現状と今後の課題

文・写真

土井雄二（和泉葛城山ブナ愛樹クラブ代表）

1.和泉葛城山のブナ林

ブナは、九州鹿児島県高隈山から北海道南部黒松内までほぼ日本全国に分布している。中部地方以北や日本海側に広く分布しているが、太平洋側では分布が狭く、通常1,000メートル程度の山で見られる。通称、ブナ帯と呼ばれる落葉樹林帯（冷温帯）で、年平均気温6～14℃の範囲に生息している。

和泉葛城山ブナ林は、貝塚市と岸和田市にまたがる和泉葛城山（標高858メートル）の北斜面に広がっている。このブナ林は、太平洋側で、位置的にも南限に近く、しかも低標高で見られるなど他地域には見られない特色をもつことから、大正12年（1923年）に国の天然記念物に指定された（指定区域：約8ヘクタール：コアゾーンと呼ぶ）。今年で指定されて100年になる。

和泉葛城山のブナ林は典型的な太平洋型のブナ林でブナ以外の落葉樹やアカガシなどの常緑樹も混じっている。ブナが優先しているがブナ以外の多くの樹木がみられる生物多様性の高い森といえる。

天然記念物指定後、倒木などでブナの個体数が減少し、和泉葛城山のブナ林が絶滅する危険性が懸念されるようになったので、大阪府はトラスト運動により1992～1993年にかけて、コアゾーン周辺の森林約47ヘクタール（緩衝樹林帯：バッファゾーンと呼ぶ）を取得し、コアゾーンだけでなく周辺のバッファゾーンを含めた地域全体での保全が進められている。現在は、「和泉葛城山ブナ林保護増殖検討委員会」（学識経験者、岸和田市・貝塚市）が基本計画を立案し⁽¹⁾、（公財）大阪みどりのトラスト協会、地元自治体が管理してブナ林の保護・増

殖を進めている。

現在、ブナは、コアゾーンには、430本、バッファゾーンの天然ブナとあわせて約850本の天然ブナが生育している。バッファゾーンには、スギ、ヒノキの人工林も多くあり、この場所を部分的に間伐して、和泉葛城山で採取したブナの種子から育成したブナ苗木が約50区画に植栽されている。

2.ブナ愛樹クラブの活動

和泉葛城山ブナ愛樹クラブは、和泉葛城山のブナ林を活動拠点として、ブナ林とその周辺の自然環境を次世代に継承することを目的に、2001年にブナ林と自然を愛する有志により設立されたボランティア団体である。前述の基本計画に基づき、（公財）大阪みどりのトラスト協会等と連携・協力して、ブナ林の自然を楽しみながら、保全活動を行っている。主な活動としては①ブナ林とその周辺のバッファゾーン（ブナ植栽地等）の整備作業、②ブナ苗木の育成と植樹（バッファゾーン：種子採取、植栽木の下草刈り、植樹会実施）③調査・観察（ブナの開花・結実調査、ブナ林、植栽ブナの現状確認、草本、樹木の花・実、昆虫・野鳥等観察・記録）④ブナ林の周知活動（ブナ林の現状や自然を知ってもらうための活動：観察会・講座の実施・協力等）

3.和泉葛城山のブナ林の今後の課題

1)天然の大径ブナの枯死、倒木が多く見られるに対し、実生を含め若木が少なく、後継樹が育っておらず、コアゾーンの天然ブナの本数が減少していく傾向は変わっていない（図-1参照）。これに対しバッファゾーンにブ

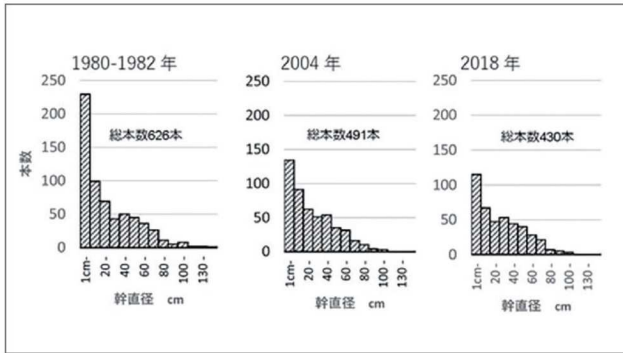


図-1 プナ幹直径頻度分布の年代比較(コアゾーン)
出典:和泉葛城山プナ林10カ年計画⁽¹⁾



写真-1 和泉葛城山プナ林天然記念物指定100周年記念プナ苗木植樹会にて(上段右端:筆者、2023年3月)



写真-2 新緑のプナ(5月)



写真-3 植栽プナ(山頂広場)に初めて咲いた花(2020年4月)

ナ苗木が約3,500本植栽され、その70%近くが活着して生育している(現在調査継続中)。成長の良い苗木は樹高15mほどに成長し、山頂広場付近に植栽された日当たりのいい苗木は2020年に初めて結実した。今後コアゾーンとバッファゾーンのプナ林を一体的に維持管理して、プナだけでなく地域全体の生態系を保全・強化していくことが大きな課題である。

2) 和泉葛城山のプナも他の地区と同様にマスティング(成り年現象、5~7年おきに豊作)がみられる。しかし近年では、プナの開花した後に充実した果実の結実がほとんど見られない(虫食いと糞の果実がほとんど)。結果として、翌春の実生のプナの芽生えが非常に少ない。また採取した果実を播種しても芽生えは見られない(2020年の豊作年の果実)。原因として近年の気候変動による気温、降水量の変化や乾燥化などが原因していると考えられている。自然更新だけでなく苗木の育成も難しい状況となっ

ている。気候変動により冷温帯林であるプナ林は生息域の高標高域へのシフトや縮小が予想されているが、和泉葛城山の山頂域のプナ林は高標高域への回避はできない。今後も開花、結実の状況を確認していきたい。

3) 和泉葛城山周辺の泉南、南河内地域では、シカが散発的な目撃・捕獲だけでなく自動撮影カメラにメスジカ、仔ジカが撮影されている⁽²⁾。最近和泉葛城山のコアゾーン中でもシカがカメラに撮影された。大阪府北部や和歌山県など近隣においてシカによる、大きな農業被害、生態系被害が発生している。侵入が拡大すれば、和泉葛城山の生態系、植生に対する脅威になる恐れが大きい。被害防止のための捕獲など現時点で対策を強化していく必要がある。

4) 市民の和泉葛城山プナ林に対する関心が低い。登山・サイクリングや野鳥観察等で和泉葛城山を訪れる方は多いが話を聞いてみると、プナ林には関心がない方がほとんど

である。プナの木がわかる方は少なく、プナ林の存在を知らない方も多い。プナ愛樹クラブでも、市民参加の植樹会、観察会、講座等を実施してプナ林の魅力や和泉葛城山の自然を知ってもらう活動を実施している。知ることにより和泉葛城山のプナ林に対する関心を深めてもらいたい。

和泉葛城山のプナ林は、四季を通じて、明るい林床にはさまざまな低木・草本の花が咲き、多くの野鳥や昆虫がみられます。新緑のプナ、黄葉のプナなど訪れるたびに感動がある森です。ぜひ和泉葛城山を訪れて美しく豊かな自然を体験してもらいたい。プナ愛樹クラブでは見学者を歓迎しています。見学者には必ずプナ林を案内して体験してもらっています。(和泉葛城山プナ愛樹クラブブログ、大阪みどりのトラスト協会HP等から連絡を)

(1) 和泉葛城山プナ林10カ年計画(2021年度~2030年度:大阪みどりのトラスト協会HP)

(2) 都市と自然No532(2022年6-7月号)P8